



組曲 “航海詩集” 指揮 時 枝 康 郎

キャプスタン

作詞 丸 山 薫

船おそき日に

作曲 多 田 武 彦

わ が 窓 に

コンパスづくし

は じ め に

組曲「航海詩集」について

多 田 武 彦



丸山 薫先生の詩集「点鐘鳴るところ」の中のいくつかをまとめて男声合唱組曲にしてみたいと私は兼々思っていた。偶々、昨年石田一郎先生が早大グリーのために組曲「点鐘鳴るところ」をお書きになったが、私は私なりの作風を以て、この詩集の中の、のびのびした気分、退屈な気分、諧謔的な気分を出してみようと思つて、石田先生のは違つた詩を4つ選んで作曲した。

関西学院グリークラブの定期演奏会の為に作曲するのは一昨年、昨年と、今年で3度目になるが一昨年の組曲「中勘助の詩から」、昨年の組曲「雪明りの路」に於ては、きめの細かい抒情性を要求してグリーの方々に随分努力を願つたので、今日の組曲「航海詩集」は、関学グリー本来の整然としたリズムやハーモニーを絶えず念頭において書いてみた。

特に3曲目の「わが窓に」などは、私がまだ旧制高校時代に、私を陶醉させたハーモニーに対する私の限りない郷愁をたつぷり盛りこんでいる。同時に「キャプスタン」や「コンパスづくし」には、これまで関学グリーによつて屢々きかされた Sea Chanty の気分を浮き出させようとし、「船おそき日に」には、不安定な曲想の中に船旅の退屈な気分を出そうと試みた。

こう書いて来ると、私はこの組曲の中に、色々な時代の関学グリーの演奏の表われるのを期待して作曲して来たように思えて来る

演奏会のご成功を祈る。

(昭和36年1月14日)